

雜載

謙讓

ニ學問ノ德ニ推サレタルナリト云ヘリ、

君をあふぎ臣をおもひてかりそめもたかきいやしき禮儀みだすな

○

〔類聚名義抄〕五謙去嫌反、ヘル和ケム、ユツル

〔伊呂波字類抄〕計謙ケシヤフ、謙下、謙恭

〔書言字考節用集〕八謙ケシヤフ、謙退、謙讓、謙下、謙辭

〔日本書紀〕十三雄朝津間稚子宿禰天皇〇允允恭、天皇自岐嶽ニ於總角仁惠儉下ヘリ

〔日本書紀〕十三六年〇正〇反〇正月、瑞齒別天皇〇正〇反〇崩、爰群卿議之〇中〇選吉日、跪上天皇之璽、雄朝津間

稚子宿禰皇子〇允〇謝日〇中〇更選賢王宜立矣、寡人弗敢當群臣再拜言、夫帝位不可以久曠、天命不

可以謙距〇下〇

〔日本釋名〕中謙ヘリケタル、へりは減也、身のたうときとかしこきとを、へらして人にくだる也、へりくだ

るは、萬の善の本なり、萬善これよりおこる也、わが身をあしきと思へば、ひたもの善にす、むゆ

へなり、

〔日本書紀〕十一四十年〇應〇二月、譽田天皇〇應〇崩、時太子菟道稚郎子讓位于大鷦鷯尊〇仁〇未即

帝位〇中〇既而興宮室於菟道而居之、猶由讓位於大鷦鷯尊、以久不即皇位、爰皇位空之、既經三載、時

有海人賣鮮魚之苞苴、獻于菟道宮也、太子令海人曰、我非天皇乃返之、令進難波、大鷦鷯尊亦返以令

獻菟道、於是海人之苞苴、綏於往還、更返之、取他鮮魚而獻焉、讓如前日、鮮魚亦綏、海人苦於屢還、乃棄

鮮魚而哭、故諺曰、有海人耶、因己物以泣、其是之緣也、太子曰、我知不可奪、兄王之志、豈久生之煩、天下

乎、乃自死焉、時大鷦鷯尊聞太子薨、以驚之、從難波馳之到菟道宮、爰太子薨之經三日、時大鷦鷯尊標